



NEWS ECO



シブヤパイピング工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681

URL <http://www.shibuya-p.com>

5月13日、沖縄気象台によると、与那国町で5月の観測史上最大となる1時間に109.5mmの猛烈な雨を記録。「50年に一度」の記録的な大雨を降らせた前線がそのまま北上し、気象庁は5月14日、奄美地方が梅雨入りしたとみられると発表し今年も南の地方から雨の季節がスタートしました。

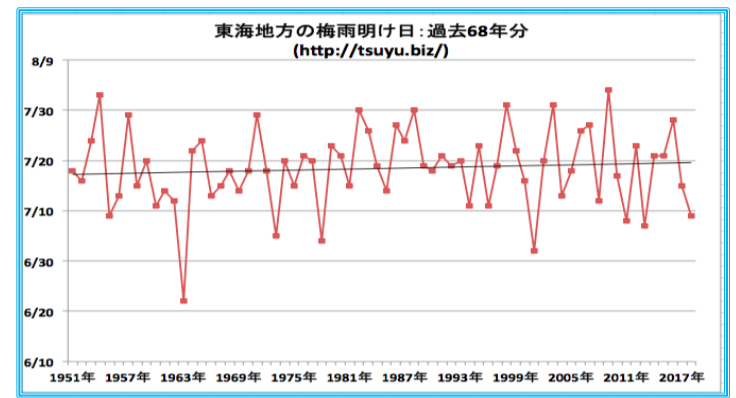
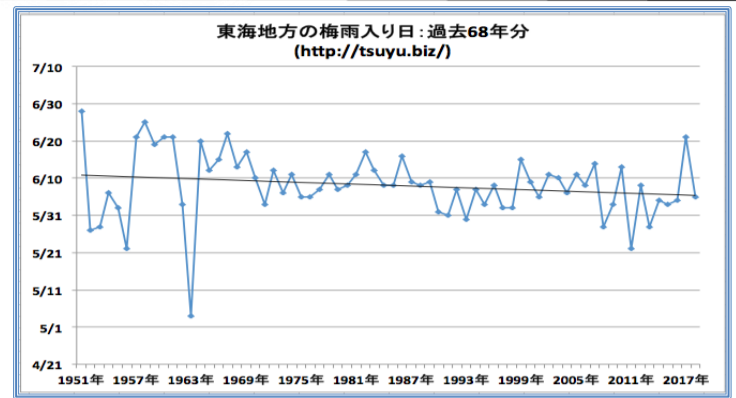
梅雨末期に大雨による被害が報告されるのが常ですが、入梅早々に記録的な豪雨が観測された今年の東海地方の「梅雨」はどうなるのでしょうか。

過去60年あまりのデータ (<http://tsuyu.biz/tokai/>) を見ると東海地方の梅雨入りの時期は年々早まっており、逆に梅雨明けの時期は年々遅くなっている傾向が確認できます。

令和元年の東海地方の梅雨入りは6月1日頃から6月15日頃の間、梅雨明けは7月13日頃から7月28日頃の予想です。長引く傾向の梅雨の期間、記録的豪雨、5月の北海道での40℃近い最高気温などなど……日本の気候が温帯から亜熱帯・熱帯へと移行しているという話も真実味を増して来ます。

地球温暖化が及ぼす地球環境の変化が毎日の生活の中に少しずつ、そして確実に変化をもたらしていることに気付き、環境負荷の大きなライフサイクルを見直していかなければ、季節感豊かな日本の四季を未来に引き継ぐことは出来ません。

6月は雨でスリッパしやすい道路、現場足場、手すりetc... 危険の増す季節です。体調管理を万全にし、いつにも増して安全運転、安全作業に努めましょう。



【ISO14001掲示

【日本の「プラごみ」の行くへ】

(参考資料)朝日新聞 GLOB+

ISO入門「ISO9001・14001：2015の基礎」

2018/2019年度・新入社員を対象にISO勉強会を下記日程にて開催します。

開催日	2019年7月26日(金)
時間	9時30分～12時00分
場所	本社会議室
講師	ハタコンサルタント(株) 三浦規義先生
対象者	2018/2019年度・新入社員

◎各部署で参加できるように調整をお願いします。
★対象者以外で受講希望の方は事務局まで問い合わせください。

受講予定の方は予め「マニュアル」第3版・文書番号・M-003を熟読して参加ください。(添削参照)
その他の必要な資料は出来るだけ事前に受講者の方にお届けしますので、マニュアル及講習資料は受講の際、持参ください。

プラスチック・ストローが海洋汚染の原因として話題になり、紙製に切り替えると発表する外食産業が増加しました。「プラごみ」全体に占めるストローの割合は0.03%とも言われ根本的な対策と言えないことは周知のことですが海洋汚染にスポットを当てたということでは大きな意味を持っています。

欧米ではストローや汚れたプラスチックを埋め立てる国が多く、後々海洋汚染の原因となる要素を含んでいます。日本ではダイオキシンなどの有害物質を排出することのない「ごみ焼却炉」が整っているため、**残飯などに混ぜられたストロー**が燃えるごみとして処理されることが多く、海辺に大量に埋められて海洋汚染につながるケースは少ないと言われています。

しかし、**焼却された「プラごみ」は「温暖化ガス、の二酸化炭素を排出し、異常気象の要因**といわれています。

日本の家庭ゴミは自治体の責任でリサイクルが行われていますが、日本国内で処理されない飲食店やコンビニ、工場などから出る**事業系の廃プラスチック(150万トン/年)のほとんどは一昨年まで中国に輸出されてきました。**

2017年12月末、**廃プラスチックを資源として輸入してきた中国が環境対策を理由に受け入れの禁止を発表。**日本は行き場のないプラスチックで溢れています。

世界中で「プラごみ」の処理規制が厳しくなる中、**次の輸出先、汚染先を探す**のではなく、日本は責任を持って自国の「プラごみ」は自国で処理して行かなければなりません。そのために私たちは**「4Rのプロセス」**を生活の中にも組み込み、努めて「プラごみ」の排出抑制に取り組んでいきましょう。

1. Refuse (リフーズ) ごみの発生回避—不要な物を買わない・断る
2. Reduce (リデュース) ごみの排出抑制
—直して使用するなど、ごみの発生量や資源の使用量を減らす
3. Reuse (リユース) 製品・部品の再利用
—一度使った物を廃棄せず、そのままの形で再利用する
4. Recycle (リサイクル) 再資源化—再資源化して利用する

”The Last Straw” (最後のワラ)

Straw=ストロー=藁(ワラ)の「お話し、

”The Last Straw” (最後のワラ)・・・という慣用句があるそうです。重い荷物を負う丈夫なラクダも限界を超えれば最後の一本の”ワラ”で背骨が折れてしまう。取るに足らないワラ一本でも重大な結果につながることもある。という慣用句です。

「プラごみ」全体に占めるストローの割合は0.03%と書きました。ストローはプラごみの環境破壊は極限に達していることを”The Last Straw”と警鐘を鳴らしているのかも知れません。



温室で品種不明のデンドロビウムが開花しました。株分けして3年、ようやく花を見ることが出来ました。大きさは15cmくらいでセッコクの交配種かと思いますが最近ではノビル系と交配した小型のものもあるとのこと。上手に世話をすればもっと大きく育ち数多くの花を咲かせるかも知れません。